2021年度 課題研究会活動成果報告書

課題研究会名：栄養・運動・口腔保健・休養の自己管理のための保健医療情報研究会

設置期間：2021/03-2024/03

代表幹事の氏名・所属：

　岡田美保子　　一般社団法人医療データ活用基盤整備機構

幹事の氏名・所属：

青木　美和　　東京大学大学院医学系研究科（博士課程在籍）／一般社団法人医療データ活用基盤整備機構

香川　璃奈　　筑波大学医学医療系

宮沢　春菜　　新潟大学医歯学総合病院

山田　恵子　　埼玉県立大学保健医療福祉学部／東京大学医学部附属病院

渡邊　佳代　　川崎医療福祉大学

活動成果の概要：

課題研究会の目的・取組み

健康寿命の延伸にむけて自身の生活状態を客観的に把握し、管理することが求められる現在、本課題研究会では、臨床栄養学、運動疫学、口腔保健、公衆衛生・疫学、医療情報技術の専門知識を集めて、医療情報学という共通土台の上で、生活習慣の改善・維持、生活習慣病の予防に寄与する次世代保健医療データ利活用のブループリントを描いていくことを目的としている。主な取り組みは、以下のとおりである。

(1) 国内外の事例を調査し、特に疫学的観点から評価する。強み・弱み、個人が記録するデータの信頼性の評価、その他、特徴的な課題について検討する。

(2) 求められる個人の保健健康活動について、動機付けにつながる働きかけ、継続のための要因などについて検討する。

(3) 国際的動向を視野にデータ記録のあり方、データの長期的継続性、異なる事業者間でのデータ相互運用性等、データ利活用性のための情報基盤の要素を整理する。

2021年度の主な活動成果

　課題研究会シンポジウム、医療情報学連合大会ワークショップ、研究会(勉強会)を開催した。疫学等の研究からみえる課題、実践で直面している課題を視野に、多様な職種、業種、専門にわたる議論・意見交換を通じて論点整理と課題抽出を行い、纏めを行った。主な活動は、以下のとおりである。

１．シンポジウムの開催

「IoTを用いた健康増進」がさかんに提唱されているいま、健康行動を継続させるためには何が必要で、地域では健康増進のために何が求められており、IoTはどう貢献するのか。このような観点から第1部「健康行動を促進させる仕組み」では、健康増進を継続させる理論的なフレームワークと、IoTを用いた運動介入への地域での取り組みについて専門家より講演いただき質疑応答を行った。また近年、食事記録や撮影アプリが増えている中、これらの妥当性研究の論文が多数出ている。第2部「健康増進に必要な保健医療情報を考える～栄養疫学の観点から」では、栄養疫学の専門家より、論文を読む時、結果を評価する時の注意点など方法論の観点から講演いただき討論を行った。

第１回シンポジウム「健康増進に必要な保健医療情報を考える～栄養と運動の観点から」

日　時：2021年9月29日(水)15:00-19:00 (Web)、参加者134名

第1部　健康行動を促進させる仕組み

1. 自治体におけるIoTを用いた健康増進～運動の観点から

久野　譜也（筑波大学）

２．健康行動をどのように継続させるか～行動経済学の視点から

平井　啓（大阪大学）

第２部　健康増進に必要な保健医療情報を考える～栄養疫学の観点から

　佐々木　敏（東京大学大学院）

　討論ファシリテータ：等々力英美（琉球大学）

２．第41回医療情報学連合大会ワークショップ

保健健康領域におけるデータの継続性、相互運用性、健康機器からの取得等に関する課題について、保健医療分野、工業界で活躍される方々の講演とフロアーからの率直な質問、意見を得てオープンなディスカションを行った。

ワークショップ 「運動・口腔保健・栄養・休養の自己管理のための保健医療情報」

日時：2021年11月19日(金)16:30-18:00（ハイブリッド）

1．フレイルに関する状態の客観的・標準的な記載方法の検討

渡邊　佳代 (川崎医療福祉大学)

2．健康増進に寄与する口腔保健データ管理と活用の可能性

宮沢　春菜 (新潟大学)

3．「正しい」データの入力と提示が可能な自己管理ツールが満たすべき要件の検討

香川　璃奈 (筑波大学)

4．健康増進に寄与する生体情報収集の仕組みづくりを目指して

辻岡　和孝（金城大学）、大西　秀典（福井大学）、山村　修（福井大学）

5．PCHAlliance（Continua）から見たヘルス＆ケア情報の利活用環境形成の課題

大竹　正規（PCHAlliance日本地域委員会代表）

３．研究会(勉強会)開催

木曜の1時間程度（12:00-13:00、Web）、関心のある方々に参加いただき、話題提供者を囲んで、日々感じている疑問点など語り合った。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| テーマ | 話題提供者 | 開催日 |
| 第1回　「睡眠・無呼吸症候群におけるIoTの課題」 | 中川　肇（前富山大学医学部附属病院） | 2021年6月10日 |
| 第2回　「IoTを活用した在宅医療・介護・見守りの実現のために」 | 光城　元博（JEITAヘルスケアIT研究会副主査、在宅・介護・見守り検TF主査） | 2021年7月8日 |
| 第3回　「アプリ系の自己管理ツールを使う上での公衆衛生学からみた視座」 | 青木 美和（東京大学大学院博士課程） | 2022年1月13日 |
| 第4回　「COCOAについて感染症対策行政や災害行政の弱点、DXと電子化など」 | 青木 美和（東京大学大学院博士課程） | 2022年2月10日 |

活動成果の発表：

［雑誌論文］　計（　1　）件

1. 渡邊佳代, 宅和由紀, 岡田美保子, 宮沢春菜, 香川璃奈, 辻岡和孝, 大西秀典, 山村 修, 大竹正規：運動・口腔保健・栄養・休養の自己管理のための保健医療情報. 医療情報学, 2021, 41（Suppl.）, 454-455.

［学会発表］　計（　3　）件

1. 山田恵子：コロナ後のロコモにどう対応すべきか？ 第11回運動器抗加齢医学研究会, 2021年11月
2. 宮沢春菜：健康増進に寄与する口腔保健データ管理と活用の可能性. ワークショップ2「運動・口腔保健・栄養・休養の自己管理のための保健医療情報」）. 第41回医療情報学連合大会, 名古屋市, 2021年11月19日, 2021. (医療情報学, 2021, 41（Suppl.）, 456.)
3. 渡邊佳代, 宅和由紀, 岡田美保子：フレイルに関する状態の客観的・標準的な記載方法の検討. ワークショップ2「運動・口腔保健・栄養・休養の自己管理のための保健医療情報」）. 第41回医療情報学連合大会, 名古屋市, 2021年11月19日, 2021. (医療情報学, 2021, 41（Suppl.）, 456.)

［その他］　計（　1　）件

1. 山田恵子: アプリを用いた移動の健康度を測定する手法の開発と実装 プレスリリース

 https://locomo-joa.jp/news/%E3%83%AD%E3%82%B3%E3%83%A2%E5%B9%B4%E9%BD%A2%E5%88%A4%E5%AE%9A%E3%83%84%E3%83%BC%E3%83%AB%E6%8F%90%E4%BE%9B%E9%96%8B%E5%A7%8B20220511\_%E3%83%AA%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9.pdf

URL　https://locomo-joa.jp/locomo-age/